

## ワークショップ2 認定遺伝カウンセラーの 卒後教育

【WSリーダー】

山本 佳世乃（岩手医科大学 臨床遺伝学科）

田辺 記子（埼玉医科大学総合医療センター ゲノム診療科）

第23回 全国遺伝子医療部門連絡会議

1

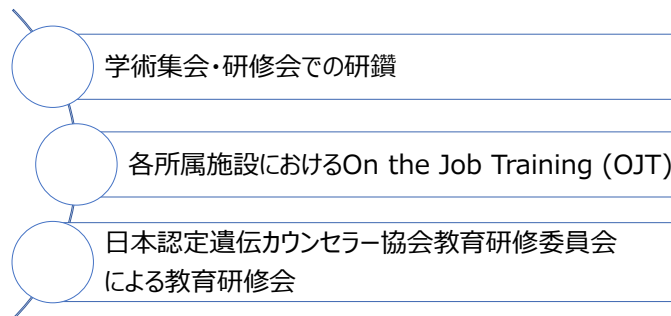
## 本WSの目的

認定遺伝カウンセラーの卒後教育の  
あり方について考える

第23回 全国遺伝子医療部門連絡会議

2

## 認定遺伝カウンセラーの卒後教育の現状



第23回 全国遺伝子医療部門連絡会議

3

## 認定遺伝カウンセラーの卒後教育の現状

### 日本遺伝カウンセリング学会による研修会

- 遺伝カウンセリング研修会
- 遺伝カウンセリングアドバンスセミナー

第23回 全国遺伝子医療部門連絡会議

4

## 遺伝カウンセリング研修会

開催日	形式	タイトル・テーマ	概要
2023.07.22 -07.23	オンライン	第13回遺伝カウンセリング研修会	不育症 Down症候群、 脊髄小脳変性症 家族性大腸腺腫症
2024.07.20 -07.21	オンライン	第14回遺伝カウンセリング研修会	出生前検査（NT肥厚） Marfan症候群 Lynch 症候群 Duchenne 型筋ジストロフィー
2025.7.6	オンライン	第15回遺伝カウンセリング研修会 （講義のみはなし）	SMA, 不育症

## 遺伝カウンセリングアドバンスセミナー

開催日	形式	タイトル・テーマ	概要
2023.3.5	オンライン	第17回 遺伝カウンセリングアドバンスセミナー	遺伝性不整脈 →突然死予防にかかわる遺伝カウンセリング
2024.3.3	オンライン	第18回 遺伝カウンセリングアドバンスセミナー	拡大新生児マススクリーニング
2025.3.16	オンライン	第19回 遺伝カウンセリングアドバンスセミナー	家族性高コレステロール血症（FH）

## 認定遺伝カウンセラーの卒後教育の現状

日本認定遺伝カウンセラー協会教育研修委員会が  
年2回教育研修会を実施している

- 認定遺伝カウンセラーセミナー  
（単位なし・参加費なし）
- 認定遺伝カウンセラー  
アドバンス研修会  
（単位あり・参加費なし）



第23回 全国遺伝子医療部門

## 認定遺伝カウンセラーセミナー

開催日	形式※	タイトル・テーマ	概要
2023.08.12	オンライン	大町由紀子先生によるご講演とワーク アサーション・メンタルケア	職場の対人関係改善のため、アサーションおよびメンタルケアについて学ぶ。ワークを通して対処法を学ぶことで、CGC自身がバーンアウトしないためのセルフケアのコツを学ぶ。 （参加者、FT他スタッフ参加計45名）
2024.08.18	オンライン	大町由紀子先生によるご講演とワーク アサーティブコミュニケーション	よりよい人間関係の為の適切な自己主張を目指す「アサーション」についての理念を理解し、ワークを交えながらその技術を学ぶ。 （参加者34名、FT他スタッフ参加11名）
2025.08.17	オンライン	山本佳世乃先生による講義 「明日から役立つ遺伝カウンセリングの技術」 （A Guide to Genetic Counseling 第3版第2章より）	第2章「文化的配慮を伴うインタビューによるワーキング・アライアンスの構築」の講義、およびグループワークを通してCGCの専門性や役割について検討する。 （参加者46名、FT他スタッフ参加9名）

※講義の一部は後日オンデマンド配信も実施

認定遺伝カウンセラーアドバンスド研修会（講義＋RP演習）

開催日	形式※	タイトル・テーマ	概 要
2022.02.23	オンライン	小児領域の遺伝カウンセリング 染色体検査の解釈と遺伝学的検査 ヒト発生と先天性疾患 Miller-Dieker症候群の事例検討 【講義】 京都大学 山田重人先生 藤田医科大学 倉橋浩樹先生 筑波大学 右田王介先生	CGCに必要な最新の遺伝学的知識と遺伝医学の 基礎・応用領域を学ぶ。 事例検討を通してアドバンスな症例における遺伝 カウンセリングの実践について理解を深める。
2023.01.22	オンライン	マイクロアレイ検査 遺伝カウンセリングにおける心理社会的支援 RP（遺伝性乳癌卵巣癌、脊髄性筋萎縮症） 【講義】 東京女子医科大学病院 山本 俊至 先生 症例報告：東京慈恵会医科大学附属病院 金 子 実基子CGC 永井マザーホスピタル 谷口 仁美CGC 【ミニレクチャー】 東京女子医科大学 浦野 真理 先生 がん研有明病院 植木 有紗 先生 国立国際医療センター病院 荒川 玲子先生	マイクロアレイ検査の解釈などについて学ぶ。 RPでは最新の知識および心理社会的支援の方法 を確認し、経験を踏まえた遺伝医療の専門職として 討議することで、実践技能を身に付ける。 （参加：講義のみ45名、講義＋RP28名、FT他 スタッフ参加20名）

※講義の一部は後日オンデマンド配信も実施

認定遺伝カウンセラーアドバンスド研修会（講義＋RP演習）

開催日	形式※	タイトル・テーマ	概 要
2024.02.23	オンライン	RP（アンドロゲン不応症、副腎白質ジストロフィー） 【講義】 東京慈恵会医科大学 宮田市郎先生 大阪大学 酒井規夫先生	2つの疾患に関する講義およびRPを通して、 遺伝カウンセリングで扱う罪悪感・性・表現度の差異 がもたらす不確実性について学ぶ。 （参加：講義のみ84名、講義＋RP24名、FT他ス タッフ参加15名）
2025.02.22	オンライン	CGC間のコミュニケーション ：先輩と後輩が共に成長するために ・マイクロアグレッション 講演：ANA Business Solutions	職場で指導する側・指導される側、それぞれのストレス を減らすためのスキルや、世代や経験年数をこえて互 いを理解し、学びあうための考え方を身に付ける。 また事例を通してスーパービジョンのスキルを学ぶ。 （参加：講義のみ11名、講義＋RP12名、FT他ス タッフ参加11名）
2026.02.14	オンライン	スーパーバイズ（予定）	CGCの技能向上のために必要不可欠なスーパーバイ ズについて理解を深め、本邦における具体的な体制作 りに向けてその定義やあり方を検討する。

※講義の一部は後日オンデマンド配信も実施

## 現状

「認定遺伝カウンセラー到達目標」は公開されている  
(2022年6月-)

- 到達目標が示すのはあくまで『認定遺伝カウンセラー  
養成課程卒業時に学生が身に付けておくべき能力』
- 認定遺伝カウンセラー資格取得者は、より高次の  
能力が求められる

## 「認定遺伝カウンセラー到達目標」の特徴

- ・養成課程での学習により到達できる目標とするために、  
遺伝カウンセリングの実践技術や職場における認定遺伝  
カウンセラーとしての関係構築、教育者としての役割など  
については「理解できる」という表現に留めている
- ・「理解できる」に留めている項目を「実践できる」・「適用  
できる」等の表現に変更することで、実際の認定遺伝  
カウンセラーの能力を表現できるように設計している

- 認定遺伝カウンセラー協会の教育研修委員会では、すでに、到達目標を「実践できる」・「適用できる」に読み替えた形で、研修内容を設定している
- この高次到達目標は現時点では明文化されていない

第23回 全国遺伝子医療部門連絡会議

13

## 高次到達目標を策定する

- 認定遺伝カウンセラーが有すべき資質・知識・技能・態度を規定したもの



初心者ではなく、経験のある認定遺伝  
カウンセラーがもつべき能力の一覧

※事前アンケートでは、『認定遺伝カウンセラーが具備すべき能力要件』としていたが、名称案を高次到達目標に変更

第23回 全国遺伝子医療部門連絡会議

14

## WSに向けての進め方

- 事前アンケートとして、高次到達目標（認定時ではなく、経験をもった認定遺伝カウンセラーが有するコンピテンシー）（案）を配布する。これにより、経験のある遺伝カウンセラーの職能について示した上で、その内容について各施設から意見を求める。
- この目標を達成するために必要な教育とは何か。各施設でのOJTにおいて有用な取り組みがある場合教えてほしい。実際どんなことをやっているのか。

第23回 全国遺伝子医療部門連絡会議

15

## 高次到達目標（認定時ではなく、経験をもった認定遺伝カウンセラーが有するコンピテンシー）（案）作成の経緯

- 現存の到達目標を雛形として、本WSリーダー・サブリーダー、到達目標WGメンバー、日本認定遺伝カウンセラー協会教育研修委員会メンバーにより作成した



これから推敲を重ねて完成させていく段階

第23回 全国遺伝子医療部門連絡会議

16

## 高次到達目標（案）の特徴

- 遺伝医学的また心理社会的知識を「理解している」だけでなく、それらを「遺伝カウンセリングの実践や関連業務に適用できる」「クライアントの支援に適用できる」「個別の支援を実践できる」こと、遺伝カウンセリングの場とその周辺領域において、個別のクライアントに合わせて用いることができることを重要視している

第23回 全国遺伝子医療部門連絡会議

17

## 高次到達目標（案）の特徴

- スーパービジョンに関しては、経験のある認定遺伝カウンセラーであっても、スーパービジョンを提供できるレベルの人と、まだそこには至っていない人がいることを想定している
- そのため、「スーパービジョンを受けた経験を積極的に振り返ることができる」・「スーパービジョンの実践もしくは後進の育成に取り組むことができる」とした

第23回 全国遺伝子医療部門連絡会議

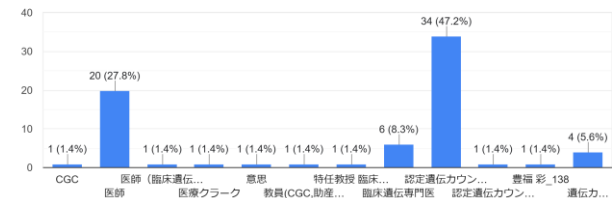
18

## WS事前アンケートの結果

第23回 全国遺伝子医療部門連絡会議

19

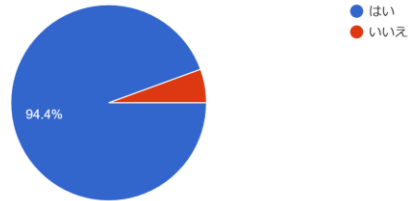
## 回答者属性\_\_職種（72件の回答）



認定遺伝カウンセラーだけでなく、  
30%弱の回答は医師から寄せられている

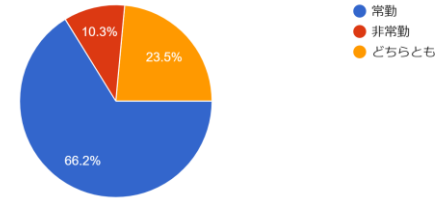
質問1. 貴施設では、認定遺伝カウンセラーを雇用していますか。

72 件の回答



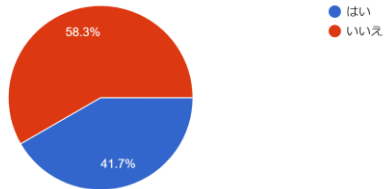
質問1-2. 貴施設の認定遺伝カウンセラーの雇用形態についてお答えください。

68 件の回答



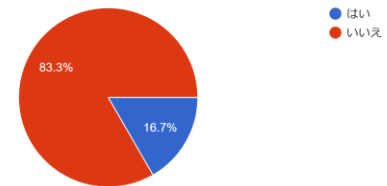
質問2. 貴施設では、認定遺伝カウンセラー養成課程に在籍する学生の実習を受け入れていますか。

72 件の回答



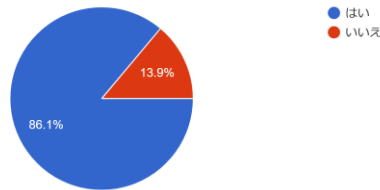
質問3. 貴施設（法人）では、認定遺伝カウンセラー養成課程を設置していますか。

72 件の回答



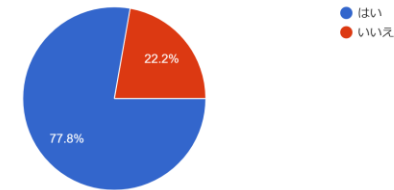
質問4. 2022年に公表された「資格取得時に到達しておくべき資質要件（認定遺伝カウンセラー到達目標）」をご覧になったことはありますか。

72 件の回答



質問5. 各学会による研修会以外に日本認定遺伝カウンセラー協会も卒後の認定遺伝カウンセラーへの研修を行っていることをご存じですか。

72 件の回答



質問6. 現在資格取得時ではなく、より経験のある認定遺伝カウンセラーが具備すべき能力の要件を策定中です（高次到達目標）。添付の案について、課題や改善への提案がありましたらご自由にお書きください。

## 認定遺伝カウンセラー高次到達目標（案）へのコメント

	カテゴリ	数
6-1	高次到達目標についての所感	12
6-2	高次到達目標の評価方法	8
6-3	高次到達目標への提案	11
6-4	その他（高次到達目標に直接関連しない意見）	7

総コメント数：46 [44施設]

認定遺伝カウンセラー 高次到達目標（案）へのコメント 詳細一覧

カテゴリ	内訳（コメント数）	コメント内容
所感 (6-1)	意見なし (10)	特になし
	肯定的評価 (8)	必要事項が適切に網羅されており、明記されている。指標として有用である
	懸念事項 (2)	現場との乖離、非現実的な項目とならないか懸念あり
評価方法 (6-2)	評価要件の設置 (4)	研鑽段階の要件設定に意義がある。具体的項目設定してほしい（目安、自己点検となる）
	評価指標の設定 (3)	実践能力の評価方法がわかりにくい。態度・技術の評価が難しい。評価方法を知りたい
	実績での評価 (1)	能力を数値化することは困難なため、実績ベースで評価が必要。
提案 (6-3)	スーパービジョン (2)	スーパービジョン項目の充実
	専門職としてのCGC (1)	CGCの専門職背景を活かす内容を
	疾患領域の専門性 (1)	疾患領域ごとの専門性強化を（→卒後教育にも追加）
	項目への具体的提案 (7)	「理解できる」「実践できる」などの文言定義を明示して均質性を
		「n-1」教育アプローチを開発し、実践できる」に
		「q-3」個人的な考えや先入観が与える影響を説明できる」を「個人的な考えや先入観が与える影響を
		理解した上で適切な対応ができる」に
		「a. 人類遺伝学の基本知識＞人体構造学・人体機能学の基本的知識を理解し・・・」について、医師
		や看護師の医療職と同じ知識が求められるわけではないと考える。教科書があるとわかりやすい
		（Thompson & Thompson掲載の疾患理解に必要な人体構造学・人体機能学など）
		oまたはnに、学会・研究会への積極的関与を
		研究プロセス項目にELSL・PPI等を明記
		到達目標との差異表示
その他 (6-4)	AIと遺伝カウンセリング (2)	AIにはできないカウンセリングという視点
	国家資格 (2)	国家資格と能力要件
	対象外 (3)	能力要件の教育・評価方法を知りたい 大変充実した内容だが2年間でこなせるか、評価体制に疑問 多職種協働や医療体制理解のフォローを養成課程で


## 6-1「高次到達目標についての所感」

カテゴリ内訳 (コメント数)	内容
意見なし (10)	特になし
肯定的評価 (8)	必要事項が適切に網羅されており、明記されている。指標として有用である
懸念事項 (2)	現場との乖離の可能性、非現実的な項目とならないかの懸念

## 6-2「高次到達目標の評価方法」

カテゴリ内訳 (コメント数)	コメント内容
評価要件の設置 (4)	研鑽段階の要件設定に意義がある。具体的項目設定してほしい（目安、自己点検となる）
評価指標の設定 (3)	実践能力の評価方法がわかりにくい。態度・技術の評価が難しい。評価方法を知りたい
実績での評価 (1)	能力を数値化することは困難なため、実績ベースで評価が必要。

## 6-3「高次到達目標への提案」

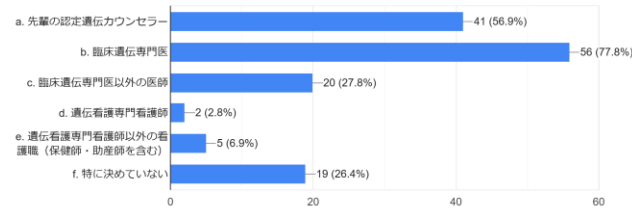
カテゴリ内訳 (コメント数)	内容
スーパービジョン (2)	スーパービジョン項目の充実
専門職としてのCGC (1)	CGCの専門職背景を活かす内容を
疾患領域の専門性 (1)	疾患領域ごとの専門性強化を（→Q11. 卒後教育に追加）
項目への具体的提案 (7)	 今後の改訂に活かしていきたいと思います



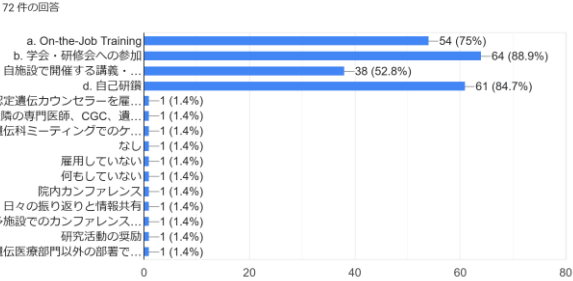
6-4「その他」(高次到達目標に直接関係しないご意見)

カテゴリ内訳 (コメント数)	内容
AIと遺伝カウンセリング (2)	AIにはできないカウンセリングという視点
国家資格 (2)	国家資格と能力要件
対象外 (3)	<ul style="list-style-type: none"><li>能力要件の教育・評価方法を知りたい</li><li>大変充実した内容だが2年間でこなせるか、評価体制に疑問</li><li>多職種協働や医療体制理解のフォローを養成課程で</li></ul>

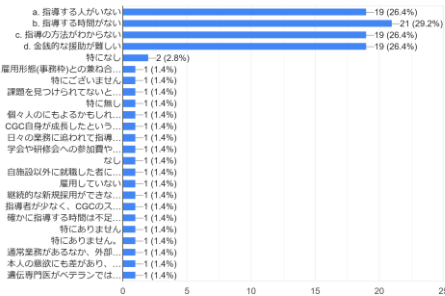
質問8. 貴施設において、認定遺伝カウンセラーの指導は誰が行っていますか。  
72件の回答



質問7. 貴施設における、認定遺伝カウンセラーの卒後教育にどのような方策をとっていますか。当てはまるものを全て選んでください



質問9. 貴施設において、認定遺伝カウンセラーの卒後教育に関してお困りのことがあれば教えてください。  
72件の回答



質問10.  
貴施設において、  
認定遺伝カウンセラーの卒後教育に関して、  
金銭的（旅費、交通費の支給など）、  
時間的（出張扱いなど）に支援する制度があれば  
教えてください。（自由記載をお願いします）

第23回 全国遺伝子医療部門連絡会議

37

## 認定遺伝カウンセラー卒後教育： 金銭的、時間的支援制度への回答

支  
援  
大  
↓  
小

分類	回答の例
学会・研修会参加の支援（9）	学会の年次大会・研修会（セミナー）参加費・旅費支給・出張扱い／書籍購入も可、など
条件付き支援	回数制限（7） 2年に1回・年1回・年2回など、制限がある／資格維持に必要な学会参加費や旅費に対して補助あり
	発表時のみ（7） 演題発表時は参加費と旅費の支給あり・勤務時間扱い
	金額制限（6） 診療部門の学会用の予算内であれば参加費・旅費支給・出張扱い／年間上限費用有の支援制度
	内容制限（5） 学会参加に対して旅費支給・出張扱い／出張旅費の支出程度／遺伝関連学会は出張扱い・金銭支援なし
研究費から支出（4）	限られているが研究費活用し旅費・参加費援助・出張扱い／教員は研究費で
その他（3）	クラウドファンディング／都度相談／連携施設での研修可能
支援なし（11）	支援はない

## 希望・要望

質問11.  
認定遺伝カウンセラーの卒後教育に関して、学会や  
協会の研修システムに期待すること、要望などあれば  
教えてください。（自由記載をお願いします）

第23回 全国遺伝子医療部門連絡会議

39

	カテゴリ	数
11-1	施設をまたぐ研修	4
11-2	具体的な研修内容に関して	10
11-3	卒年に応じた体系的研修制度	7
11-4	認定遺伝カウンセラー上級資格制度導入	4
11-5	オンライン・オンデマンド研修	7
11-6	参加費用負担軽減	3
11-7	コメント／特になし	9

第23回 全国遺伝子医療部門連絡会議

40

## アンケート結果についての総評

- 高次到達目標（案）の内容へのコメントではなく、この目標をどのように評価するかに関するコメントが集中した  
→ 案自体は、肯定的に受け取られているようだ
- スーパービジョンに関連するコメントも多くみられた

## WSでの検討内容

### 事前アンケートの結果を参考に

- 高次到達目標の改訂について検討する
- 卒後教育内容を検討する

認定遺伝カウンセラー高次到達目標（案）へのコメント 詳細一覧

カテゴリ	内訳（コメント数）	コメント内容
所感 (6-1)	意見なし (10)	特になし
	肯定的評価 (8)	必要事項が適切に網羅されており、明記されている。指標として有用である
	懸念事項 (2)	現場との距離、非現実的な項目とならないか懸念あり
評価方法 (6-2)	評価要件の設置 (4)	研修段階の要件設定に意義がある。具体的項目設定してほしい（目安、自己点検となる）
	評価指標の設置 (3)	実践能力の評価方法がわかりにくい。態度・技術の評価が難しい。評価方法を知りたい
	実績での評価 (1)	能力を数値化することは困難なため、実績ベースで評価が必要。
提案 (6-3)	スーパービジョン (2)	スーパービジョン項目の充実
	専門職としてのCGC (1)	CGCの専門職背景を活かす内容を
	疾患領域の専門性 (1)	疾患領域ごとの専門性強化を。（→卒後教育にも追加）
	項目への具体的提案 (7)	「理解できる」「実践できる」などの文言定義を明示して均質性を
		「n-1」教育アプローチを開発し、実践できる」に
		「q-3」個人的な考えや先入観が与える影響を説明できる」を「個人的な考えや先入観が与える影響を
		理解した上で適切な対応ができる」に
その他 (6-4)	AIと遺伝カウンセリング (2)	「a. 人類遺伝学の基本知識> 人体構造学・人体機能学の基本的知識を理解し……」について、医師や看護師の医療職と同じ知識が求められるわけではないと考える。教科書があるとわかりやすい（Thompson & Thompson掲載の疾患理解に必要な人体構造学・人体機能学など）
	国家資格 (2)	oまたはnに関して、学会・研究会への積極的関与を
	対象外 (3)	研究プロセス項目にELSI・PPI等を明記
		到達目標との差異表示
		AIにはできないカウンセリングという視点
		国家資格と能力要件
		能力要件の教育・評価方法を知りたい
		大変充実した内容だが2年間でこなせるか、評価体制に疑問
		多職種協働や医療体制理解のフォローを養成課程で

## コメントが集中していたのが カテゴリ6-2「高次到達目標の評価方法」

評価要件の設置	目安や資格更新との関連を明示してほしい。
	卒後の研鑽段階の要件設定が意義あり。
	ラダーをより細かく設定してほしい。
評価指標の設定	もう少し具体的な項目を加えて自己点検しやすくしてほしい。
	実践能力の評価方法がわかりにくい。「評価指標例」や「実績証明」などの補足を。
	能力要件の教育・評価方法を知りたい。
実績での評価	態度・技術の評価が難しい。
	能力を数値化・見える化するのは困難。実績ベースで評価が必要。

第23回 全国遺伝子医療部門連絡会議

45

- 今回提案しているのは「高次到達目標」だが、それを達成できているかどうかの「評価」も合わせて検討する必要があるという意見が多かった
- 現存の到達目標の「評価」は各養成校の卒業ならびに資格試験によって行われている
- 卒年ごとやラダー評価も提案されているが一律の評価は現実的に難しいのではないかな？



### 議題 1 「評価について」検討する

47

## カテゴリ11-3. 卒年・領域に応じた体系的研修制度

卒後の経験年数や領域によって求められる知識や能力が異なるので、トレーニングが重ねられる研修システムがあると良いと思います

疾患領域ごとの専門性強化を（カテゴリ6-3より）

体系的な卒後教育は、医療機関では限界があると考えてるので、学会や協会の研修システムに期待しています

当院はCGCが1人のため、同じCGCより教育を受ける機会が限られています。学会や協会より研修の機会を提供していただくことは、とても貴重な機会と考えております。これからもどうぞよろしくお願いいたします

認定遺伝カウンセラーにとっても、その他のコメディカルにとっても有益な卒後教育システムを学会で構築してほしい

現場に即した教育システムを構築していただきたいです

資格取得後の研修期間をつくるなど、質の担保を検討していくことは可能なか能力要件の運用に合わせた研修を組んでいただければ

第23回 全国遺伝子医療部門連絡会議

46

- 「高次到達目標」は、全ての項目を全ての認定遺伝カウンセラーが到達すべきという視点では作られていない

→「到達目標」との違い

何をどこまで評価するか・評価できるか

第23回 全国遺伝子医療部門連絡会議

48

## スーパービジョンに関する意見

### カテゴリ6-3.提案

- スーパービジョンの項を中心にまとめるのがよい。
- 後輩育成項目を充実させては。

### カテゴリ11-2.具体的な研修内容に関して

- 先輩が施設にいない場合に、気軽に近くのCGCに相談できるメンター制度などがあると良い。
- スーパービジョン実施者の育成プログラムが必要。
- スーパービジョンの機会の提供や助成、経験者・指導者のための指導方法研修会など
- 養成課程で指導されている専門医の先生方によるオンラインでのSV
- 卒後教育の指導方法のノウハウの共有

第23回 全国遺伝子医療部門連絡会議

49

## カテゴリ11-4. 認定遺伝カウンセラー上級資格制度導入

- 1) 多忙の中に研修したのちの試験など評価制度の整備,
- 2) 現行の「指導者資格」の再検討,

### 専門医のような認定遺伝カウンセラーの上級資格

今後は卒後年数や経験によって、能力の差別化をはかるようなシステムがあっても良いかと思います。

上級資格制度を設けてほしい。

第23回 全国遺伝子医療部門連絡会議

50



### 議題2 スーパービジョン体制について

「高次到達目標」の「評価」システムとして機能するか？なども

第23回 全国遺伝子医療部門連絡会議

51

## 各グループで話し合う内容

1. 高次到達目標の評価に関する提案を1つまとめる
2. スーパービジョンに関する提案を1つまとめる
3. 認定遺伝カウンセラー上級資格についての意見
4. 高次到達目標についての追加の意見

3. 4は  
お時間があれば

第23回 全国遺伝子医療部門連絡会議

52

## 各グループで話し合う内容

### 高次到達目標の評価に関する提案を1つまとめる

<話し合うためのヒント>

- ・誰が評価する？
- ・どうやって評価する？
- ・いつ評価する？
- ・何のために評価する？

第23回 全国遺伝子医療部門連絡会議

53

## 各グループで話し合う内容

### スーパービジョンに関する提案を1つまとめる

<話し合うためのヒント>

- ・誰がやる？職種は？どこがやる？資格？認定？
- ・施設ごと？施設をまたいで？
- ・有償？無償？
- ・業務時間内にSVを実施してもいい？
- ・集団？個別？
- ・頻度？ など

第23回 全国遺伝子医療部門連絡会議

54

高次到達目標（案）について  
多くの皆様からのご意見とご協力をいただきました。  
改めて、深謝申し上げます。

第23回 全国遺伝子医療部門連絡会議

55